

風船かずら

～ 花言葉「一緒に飛びたい！」～



スキルアップ研修講座「知恵を出し合って、もう一歩、踏み出そう！」

二日間の研修、ご苦労様でした！

1月26日～27日、本協議会主催のスキルアップ研修講座に100名を超える皆様にご参加いただきました。農福連携に取り組む農業技術センター・研究所の研究成果、事業所の方々から現状と課題を報告していただきました。今後の取り組みに多くの示唆をいただき有意義な研修となりました。（アンケート結果をご覧ください）

基調講演で「障がい者の自立に向けて」という演題で講演いただいた大阪府立大学の三田優子准教授には、これまで関わられてきた障がい者の人たちとその人たちを取り巻く人たちのありようをご自身のあふれる思いを伝えていただきました。会場の参加者皆が涙したその一部を紹介します。



ある施設で、職員が「いつ施設を出てもいい人がいるけど、本人が強情で、入所してから30年毎日門の所に立っている人がいる。本当に物好き、何で立っているかわからない」。三田さん、「それが分からなくてよく給料もらっているね」。彼と一日目。「どうして立ってるの?」「何で国道を見るの?」「何を見てるの?」と聞いても何も答えてくれないが、白い車が通ると「おおーっ」と言う。「白い車が好きな?」と聞いても無視。二日目。冷たい飲み物を渡すと「ありがとう」。「何で白い車を見てるの?」「お父さんの車なんだよ。前、送ってくれた時は白い車だった」。30年前、6歳の時、家族で旅行に行こうと自分だけ大きな荷物を持たされ、施設の前に荷物を置いて「いい子になったら迎えに来るからね」と彼を置いて行った。30年間、一度も面会に来ていない。それから30年間、いい子になれない自分を責めながら毎日門の所に立っていることが分かった。何が問題か。その話を職員が何も知らないこと、何で立っているかわからない、それが分かたら苦労しないという一言で片付け、その人の心に寄り添おうという職員がなぜいなかったのだろうか。できないことを探すのではなく、誰もが持っている可能性に目を向けて、皆さんが持っている夢を同じように障がい者も持っているのではないか。現在、彼は施設を出て、お父さん、お母さんがいつ来てもいいように、毎日お茶菓子を用意し、客用の布団を揃え、地域で生き生きと生活している。障がいがあるということで、ちゃんと自立しなさいということを義務づけられている現実があるが、本当に変わらなければならないのは、社会の方だろう。

三田先生は、「どうしたらこの人が幸せになれるだろうか、そのことをプランニングするのが支援者の仕事であるはずなのに、できない部分のみに視点をあててその人の行動を阻害してしまっていることに私たちはもっと気づくべきだ」と強調されました。もっと多くの教育関係者や行政の方々にも聞いていただきたいと感じました。

先進地視察（岡山市内）

今後の日程

2月17日（水）～18日（木）

岡山県岡山市

三重県障がい者就農促進協議会 事業報告会

基調講演：JA共済総合研究所主任研究員

濱田健司さん

日時：2016年3月21日（祝・月）10:00～16:30

場所：三重県総合文化センター

男女共同参画棟3階 セミナー室C



三重県障がい者就農促進協議会
〒514-0003
三重県津市桜橋2丁目142
三重県教育文化会館1F
TEL 059-253-4187 fax 059-253-3359
E-mail mieshuno@dune.ocn.ne.jp

「スキルアップ研修講座」アンケートまとめより(抜粋)

26日

- ・素晴らしいご講演ばかりでした。何よりも How to ではなく（それに留まらず）心、精神的なものをお伝えいただいたご講演が多かったのが、これまであまり経験したことのないものだったのです。本当にありがとうございました。（50代 学校関係）
- ・健常者がやっても難しい農業を障がい者の方が働ける様、作業の工夫、モチベーションアップに向けたチームワーク形成、励ましなどの活動を上げていることに驚きました。障がい者の方が農業に取り組むハードルを下げること、新規就農者の農業参入が促進されるのではと思うほどです。（50代 行政）
- ・私は、B型事業所で水耕栽培をしているが、それ以外の農業では、農繁期や仕事がない時期はどうするのかと疑問に思っていたが、福祉事業所からの施設外就労という形で、島根県では、既存農家への派遣する形で実証検査をされているということで、とても感銘を受けた。（20代 福祉事業所）
- ・私のところの事業所では、農業以外に「何でも屋さん」的な事業を行っています（不用品回収や除草作業、ハウスクリーニングなど）。その日によって、利用者さんは、行く現場が異なり、農業に専属することもできない現状があります。利用者さんの工賃アップのためにはしかたのない事ですが、農業は継続するものと考えますので、このような体制では真の農業はできないと思います。このように他の事業にたよらない農業経営の何かポイント（アドバイス）があればご教示くださいますよう、よろしくお祈いします。（40代 福祉事業所）
- ・伊藤良一さんの話を最後に聞き、ジョブトレーナーを目指す私にとって余計な気負いが消えました。先ず自ら「働けること」に感謝の気持ちを持っているか、障がいの有無を問わず、苦手なことをどう工夫し、そして生きていることに喜びを感じているか、そこが原点となることを確信しました。前田さんが、「観察力を持ってください」の言葉も、社会の動きに、そして共に生きる障がい者の生活そのものにも目を向けることが大切という奥深さを感じました。ありがとうございました。

27日

- ・三田先生の話、笑いの中に、どきっとするような「人間」としてのあたりまえの尊厳があたりまえじゃない現状が多くあること。自分も知らず知らずのうちに、踏みにじってしまったことがあることを胸に手をあててみるがありました。最後のグループ討議の中でも、人それぞれの思いに耳を傾け、知恵を出し合うことの大切さを痛感しました。新たなスタートの日となりました。（50代 福祉事業所）
- ・三田講師の話は特に参考になった。指導者・支援者・関係者など障がい者の自立支援にかかわる人にとって上から目線になることもしばしば発生することを反省すべきだと気づきました。「この子供達」「この人達」にとって「幸せになってもらう」ことを主眼においた支援が今後の課題です。一步一步幸せに近づく手伝いを時間をかけて一緒に歩いていくことが重要だと思います。（60代 福祉事業所）
- ・ケーススタディは参考になりました。NPO 法人えんさんの話からは学ぶところが多かった。ただ、地域との結びつきについて、水耕はどうかの疑問を感じた。（70代 農業経営体）
- ・ケーススタディ・支援計画作成実習を実施し、参加者の方々の積極的な参加に感動しました。（60代）

今後の希望

- ・農業での女性の活躍現場や実際現場で働かれている女性の障害者の発表をききたいと思いました（働かれているかたは、男性が8割ぐらいだったと思いますので、女性から見て魅力ある農業とは？ 農業で活躍されている女性の方のお話を伺ってみたいと思います）。2日間、貴重な研修の機会を作っていただいた事に心より感謝申し上げます。有難うございました。
 - ・東紀州で就農を考えると、いそがしい時期と仕事のない時期があり、年間通しての就労先にはなりにくい。移動手段の確保（通勤も含めて）が大きな課題になっている。これらにかかわって、各地の状況を知りたい。（50代 学校関係）
- アンケートへのご協力ありがとうございました